

モラロジーとイスラーム はじめに

田島 忠篤

本稿は、令和4（2021）年度の「道徳科学研究フォーラム」において「モラロジーとイスラーム」として発表された2022年1月19日に配布した資料に訂正加筆したものである。この発表は、前年度第2回フォーラムで「ムハンマドを含めた聖人研究の展望」として、司会を務めた筆者以外のプロジェクト・メンバー全員¹⁾による共同発表²⁾を受け、2021年度は、道徳科学研究所³⁾の研究フォーラム委員会から「モラロジーとイスラーム」に焦点を絞った発表依頼を受け、研究と実践に焦点を当てた発表を企画した。一つは、「道徳科学研究所のイスラーム研究」と題して、これまでの道科研での研究成果を総括し、今後の展望を行う内容である。他方は、今後日常生活でも関わりの深くなるハラール（イスラームの教えに則った許容事項）について、「イスラームのビジネス—ハラール認証制度から見るイスラームの変化—」と題する内容である。そして、前半部分を道科研客員教授の田島忠篤が、後半部分を同メンバーの現千葉経済大学経済学部経営学科講師の藤原達也（発表当時はポストドクター）が担当した。

1) 当プロジェクトのメンバーには、本報告者2名（田島・藤原）の他に、代表のアブドゥラシティ・アブドゥラティフ道科研研究員と竹内啓二同客員教授がいる。

2) 発表内容はアブドゥラシティ・アブドゥラティフの「ムハンマドの生涯と思想—カレン・アームストロングの著作を中心に」、藤原達也の「イスラームとは何か？イスラームにおけるビジネスエシックスの体系を探って」、竹内啓二の「ムハンマドを含む聖人研究の展望—先行研究から」であった。

3) 当研究組織は、財団法人モラロジー研究所「研究部」として昭和31（1956）年に発足し、平成13（2001）年からは「道徳科学研究センター」、令和5（2023）年度から公益財団法人モラロジー道徳教育財団の「道徳科学研究所」と変遷してきた。ここでは、これら全てを道科研として表記する。